



NO. 11

うたがき

DURING THE
EQUESTRIAN GAMES
OF THE 10TH OLYMPIAD
LT. COL. SHUNZO KIDO

TURNED ASIDE FROM
THE PRIZE TO SAVE
HIS HORSE

HE HEARD THE LOW VOICE
OF MERCY, NOT THE LOUD
ACCLAIM OF GLORY

1934

ERECTED BY
RIVERSIDE HUMANE SOCY
UNVEILED IN THE PRESENCE OF
H. I. H. PRINCE TSUNENORI KAYA

清原重徳

目次

巻頭言	緑鞍会々長	井上恒春	(1)
五十一年日の目標	監督	佐藤一貫	(2)
御挨拶	部長	日向寺純雄	(2)
主将挨拶	星享輔		(3)
現状報告			(4)
馬場OBより			(7)
現役から			(10)
阿部先生近況			(13)
何でも言おうコーナー			(14)
馬術部今昔			(16)
馬場で拾った話			(16)

何でも言おうコーナー

馬術部今昔

馬場で拾った話

（大塚真理子・内藤喜嗣）

（梅本元子・藤根威・稲能武臣）

（矢野真理子・三村のり子・井上和宣・上山千恵子）

（原野洋・内山えり子・高津彦太郎）

（青木真次・沈迺瀆・神藤重光）

城戸俊三先生のことども.....井上恒春

OB伝言板.....(18)

聞いてください.....(20)

高等部紹介.....(21)

(矢作直也・色部真美子・中島かがり・清水文子・入江雅代・大山祥子)

試合結果報告.....(22)

現役紹介.....(26)

四年生十アルファー達.....(29)

三年生.....(30)

二年生.....(31)

馬匹紹介.....(32)

緑鞍会会員名簿.....(34)

会計報告.....(33)

縁鞍会よりのお願.....(29)

.....(40)

.....(33)

巻頭言

緑鞍会々長 井上恒春



衷心より感謝申し上げます。

今回「いななき」第十一号を発刊するにあたって、平素馬術部にご援助を賜わっております学院首脳部並びに体育会首脳部の諸先生方に厚く御礼申し上げます。又、常々何くれとなく現役の面倒を見ておられる緑鞍会の会員諸氏にも

さて、現在緑鞍会の会員数を眺めますと、現役を含めて約四百名に垂んとする大世帯なので、今度発行される「いななき」にも、内容豊富な事が溢れることでしょう。現役の目覚ましい活躍ぶりは勿論のこと、会員諸氏の貴重な体験談など広範囲から寄稿されるので会員一同大きな期待を寄せております。

尚この機会にお願いしたいことは、現役及び緑鞍会に対して何なりともご意見がありましたら卒直に述べていただく絶好の機会でありまので、是非この種の意見も併せて提供されんことを願っております。こうした広い会員から集まった声は、緑鞍会、又は馬術部の今後の発展に必ずや役立つものと信じますので、何卒ご協力のほど御願い申し上げます。

昭和五十一年三月

以上

五十一年目の目標

監督 佐藤 一貫

御挨拶

部長 日向寺 純雄

今年も新学期を迎える時期になった。改めて感慨を述べるとまでもなく、全ての条件を踏まえた上で、本年は次の事を目標として部員個々の活動力を集結したいと思う。

全日本学生馬術競技に団体参加すること

右の事に全ての活動を集約して行きたいと思う。

部員個々の技術の向上と意欲の昂揚を計って、馬匹の調整と管理充実に重点を置く。

各自は与えられた責任を全し、より以上の進取の氣勢を養って欲しい。

取えて競技に焦点をしぼるが、各自はいつでも競技に出場できる態勢をとって居て欲しい。選手として選ばれる者は気力と技術の充実した者を特に選出したい。

さて、前記の如く本年はこのような目標をたてて、普段の活動をスケジュールに従って充実させて行きたいと思う。

「いななき」のべ切に迫られ、年頭に私として考えたことを敢えて筆にしたが、部員各位の今年度の抱負を改めて問いたい。

半世紀をこえる伝統を有するわが馬術部長の座を汚してもう五年にもなります。馬について全くの素人が部長になってどうなることかと思っていたのですが、ここ二、三年、常時上位入賞をねらえる程にまで戦力が充実してきているそうので、弱将の下に必ずしも弱卒がいるわけではないようです。いずれにしても喜ばしいことと思っております。これは監督、コーチ等の御努力もさることながら、ひとえに緑鞍会会長をはじめとする諸先輩の物、心両面にわたる御援助のたまものであると思えます。

現在の大学は、かつてのエリート養成の大学とは異なっており、同世代の三人に一人が進学する大衆高等教育機関に変貌し、人生のある一時期を過す施設となっております。このような大学においては、クラブ活動は学業とならんで学生生活を充実させるのに欠くべからざる車の両輪となっております。

大学、馬術部そして緑鞍会のみならず、その発展を祈つてやみません。

主将挨拶

星 亨 輔

大学に入り勧誘されるままに馬術部の門を叩いてから早いもので三年経ち、残すところ一年弱となつてしまいました。昔から生き物の苦手だった方の私は、初めて厩に行つた時、も恐くてなかなか馬に近寄れず、先輩に宥められながらさつと手を触れることが出来たくらいなのです。鞍に手を置き乗馬の仕方を教わり恐る恐る鞍上の人となつた時の感激を今も昨日の事のように感じられます。

そんな私も今、馬術部の主将という責任重大な職責を預かり、責任の重さを痛感しています。馬に接し始めてから二年という歳月は馬を語るにはあまりにも短かすぎ、ましてや馬術を語るなどとても出来ない。しかし、この三年の間にいるいと御指導下さつた諸先輩、監督、阿部先生の教えを後輩の全てに伝えていかなければならない。一つとして漏らさず伝えなくてはならない。

我々は多くの諸先輩が築き上げてきた五十数年の長い歴史と伝統を受け継ぎ、阿部先生を師と仰ぎ馬術の追求に精進し、互いに切磋琢磨し多くの困難を乗り越えていくことにより、団体優勝を目指していかねばならない。そうすることに

よりクラブの部員の団結力は次第に増し、必然的に戦績も上がり、クラブの発展につながるものと信ずる。

幸いにもここ二、三年の間に、監督、阿部先生、高津さん、原野さん、高橋さんら多くの先輩の御努力により馬匹は向上されました。我々現役は互いの技量を磨き団体優勝を目指し足並をそろえて目標の達成に向つて努力していかなくてはならない。

一番大切なのは交流のキンシップ

―現役とOBと―

青木真次

早いもので、もう十年余になるかしら、「いななき」の創刊号が出されたのが。こんど委員の方達のお骨折りでまた出されるとのこと今からたのしみしています。

わが緑鞍会も現井上会長「五十数年前の初代キャプテン」によって象徴されているようにそのよき伝統がこんなにも永く守られてきたということはまことに御同慶の至りであります。

これからの一番大切なことはこの伝統を毎年々々どうして現役諸君に譲りつゞけて行くか、現役からみればどうしてそれを相続して行くか、ということだと思えます。そこで現役から質問が出てくるにちがいないのは「そんなに大切な伝統と言っても何だか雲をつかむような話で、具体的に何を受継いだらいいのか教えて下さいよ」と。だから今日はこのことを現役諸君は少しくわしく話してみたい、と同時にわれわれOBの反省もしたい。

伝統と歴史の伝承にちがいないけれど、それが過去の記録だけだったらそれは死んだもので、今日の栄養とはなり難い。僕らの伝統は活きているものでなければ何の役にも立たんです。活きた伝統とは「現役とOBとの絶え間のない交流」の中から自然にうまれてくるものであって、それが又おたがいの接触の中で知らぬ間に受け継がれて行く、言わば無形財のようなものなのです。それじゃその中から何がうまれてくるのか、それ、は何であつてもいいのです。先輩が苦勞した話、自分の食べものを食べないで馬の飼を買った話、馬が可愛いゝばかりに落第した話、試合に勝つた話、負けて悲しかった話、親に馬をやるって言われて家出した話、合宿に行つて仲間が死んだ時の話、女にほれた話、部の金を使い込んで一生の恥をかけた話、「立派な学生選手」になるのには先ず「立派な学生」にならなければと気づいたときにはもう卒業まぎわで間に合わなかつた話、こう言つた話が肌から肌へ伝わつて行く。こういつた最も人間的な接触、これがスキンシップなのだ。後輩や現役はそんな中から知らぬ間に自分で自分の行く途を選んでいる。こういつたことは学生時代に共に汗を流し合う仲間でなければ、

一生味うことのできない尊い又たのしい人間関係ではないだろうか。この血の通つたOBと現役の関係が今年も来年もそのさき何年でも、時が移り人がかわつても続いて行くことそのことがわれわれの言う「伝統」なのである。

いやに話が理屈っぽくなつたけど、要するにOBと現役はもつともつとスキンシップを必要とするということだ。接触し合うことだ。一月に一度でよい、それもできなければ半年に一度だつてよい、OBは綱島を訪れよう。子供でも孫でも連れて行つて、昔おじいちゃんはどうやつて馬に乗つたんだよと見せてやろう。現役はOBが来たらもつと甘えるべし。誰に遠慮がいるのか。「腹がへつてたまりません」でもいい。「練習の激しさは厭いませんが砂ホコリだけは何とかして下さい」でもいい。「陸上競技場はあんなにすいているのに馬場だけはどうしてこんなに狭くて混み合わなければならぬでしょう。何とかして下さい」でもいい。大体OBにとつて、母校は例外なく「心のふるさと」なのである。しかもその思い出の象徴は共に笑い共に泣いた馬術部なのである。だから現役は可愛くしようがないのである。少し位小遣いを節

約したつて寄付したいと思うのが自然なのである。綱島にももつと行つて若い者と話したいのである。「もつともおたがい中年ともなる」と結構忙がしくて心ならずも御無沙汰してしまふけれどその時のためにこそ緑鞍会という組織があつて幹事長や幹事諸君が忙しい人達の代行をするようにできているのである。そんなみんなの自然な気持ちを何が、誰が邪魔しているんだらうとつくづく考えてみたらそれは誰でもない。ただただスキンスリップが足りないと言ふことだけなのである。

「どうして再びスキンスリップを取り戻すか」これが今の、お互いの最大の課題だと思ふ。

緑鞍会の生いたち

沈 廼 濱

久しぶりの「いななき」の発刊になにか一言をとつたことなので緑鞍会の生い立ちなどを記してみようと思ふ。古い話になるが戦後なんとなく中断されてしまつた馬術部を、ともかくにも部の結成にまで復宿させたが戦前一世を風摩した我が青山学院馬術部のOBの

会がなく昔の活躍振りを目にするたびに先輩との交流がないのが淋しかった。

そこで校友会名簿をたよりに馬術部に在籍した先輩を探し出し、訪問して話の中から名簿にない先輩の消息を聞き出し、又それを追いかけて行くという努力がむくいられ私が大学二年生の時に始めて第二回OB会を開くことが出来た。この時は仲々盛況の集りで先輩方も久しぶりで顔を合わす為かお茶とケーキの会であつたが話はずみ普話に花を咲かせる和気あいあいのうちに会を持つことが出来た。

そして二回三回と開いているうちに馬術部のOB会なのだから皆で馬に乗る会をやつたらどうか、それも年の始めにやろうという事になり一月の初乗会が計画され、それが今日も続いているというわけなのである。そして名称も青山学院のスクールカラーであるグリーンにちなみ緑鞍会と称することになった。

今はこの会員たる卒業生も忒百五拾名を越える様になり、OB間の親睦及び現役の指導を目的とする運営委員として幹事会組織まで出来た。会員の推薦により会長以下各年代よりピックアップされた幹事の方々がいろいろと行事等の計画及びび学生との交流に心掛けている。この様な私利私欲をはなれ、部の為に

と考えている親睦団体は他にはみられないだろうとひそかに自負しているところである。

OBの方々の中にも大分お年を召した方が増え、又日頃馬に乗る機会が少ないので馬に乗ることが苦痛になつて来ている方々も初乗会というと昔とつた杵柄の郷愁からか集りはよく今年の初乗会には四十三名の方がおいで下さつた。最近の初乗会の現象は子供の姿が目立ち、日頃おとなしい父親、母親はこの時とばかりに威厳を保つのに利用されている様である。

又幹事の方々はこの他に練習会やらゴルフ会やらと出来る丈多くのOBの懇親をはかり、学校を出られた後も尚青山学院馬術部に愛着をいだかせる様な緑鞍会にしたいと念願し努力している。私は丁度戦前と戦後の中間点に居りその中では一番年をくつているからという事で幹事長なる名称をいただいているが各幹事の方々が自分の着任を全うしてくれているので、仕事としては幹事会の召集の連絡とか司会とか主なる仕事という楽な事をさせていたゞいてはいるわけである。

幹事は会員全部の方にもちまわりでやつてもらつてゐるが何の利益にもならないのに進んで部の発展及び緑鞍会の結末の為に働きの

下さっている方々にこの紙上をかりて感謝の意を表しお礼申し上げます。

今後とも益々良い部、良い会となつて行く様皆様方の御協力をお願いしつゝ、つたない筆を置くことにします。

酔ってあれこれ

神 藤 重 光

本当に久しぶりの「いななき」ですね。ぼくは社会に出てから間もなく十五年になろうとしていますが、未だかつて「いななき」に原稿を書いたことがありません。なぜならば自分の思っていることを人前で話したり、文章に書いて表現することが全く苦手だからです。でも今回はどうしても書けと言われ、とうとう書いています。というのも「いななき」を作れ、と言ったのがぼくだったせいでもあるのでしよう。

さて、ぼくたちのいた頃の部（昭和三十三年〜三十七年頃）と今の部とを比較してみても気のついたことを二・三書いてみます。ぼく等の現役の頃は一年に一回関西遠征に行き、

合宿は地方に出て、遠乗りも年二・三回は山中湖、御殿場、軽井沢等と行き、そしてOBからよく御馳走になったものです。

また、ダンスパーティーや音楽会などを開いて多少馬糧代を作つたりしたものです。年末には「白馬車」を借りきつて部の忘年パーティーをやり、OBとの交流はかなりあつたのではないかと思われます。

本当に楽しいことも苦しいこともありました。この様に言いますと、「以前のOBの人達は何言っているんだ、当然今でもそういう「楽しい」部ではないか」と言われることでしょう。ところが私の見る所、いさゝかちがうのです。もう馬術部には古き良き時代の良き伝統は無くなっているのではないかと感じるのです。

ぼくから見た現役を一口で言いますと、彼らは口ポットなのか？という事です。ぼく等の頃と学校の予算も部員数もあまり違わないのに、現在は馬が十六頭（当時は四・五頭、それでも赤字だった）で、物価は上つているのに、赤字も出さず不平も言わず、黙々と更に馬を増やし続けている。そして土曜、日曜の部員のバイトによつて年間四百万位の経費ができています。

合宿は網島の馬場でしかやらない……馬が多くて他ではやれない……、遠乗りは行かないし、関西遠征は行かない。OBとは接触する方法を知らないのか…… 一体、本当に楽しいのかな、と思つたり、感情があるのかなとも。

そして彼ら現役は本当の部とは何なのか、又馬術部の伝統とは何なのかを知らないのではないかと思われるのです。

OBとしてこのまゝで良いのか、と自問し何とかしなければいけない時が来ている様な気がしているのは一人ぼくだけなのだろうか………。



「馬術」と「乗馬」

原野 洋

ふつう、「馬術」と「乗馬」は同じ様な意味で使われることがある。この二つの意味を国語辞典で調べてみると、馬術とは「馬を乗りこなす術」とあり、乗馬とは「馬に乗ること」、「乗る馬のこと」という二通りの意味を持っている。この二つの言葉の意味には大きな違いがある。

一般的に乗馬クラブでは、馬の調教は専属の調教師が行い、馬の管理は全て馬手さんがやってくれる。これでは一般騎乗者は、馬上での優越感に浸るにすぎないだろう。

小さい頃、誰でも一度は馬に乗って広々とした草原を楓爽と走り回りたい、という願望を抱いたことがあると思う。これは、スポーツというよりもレジャーという意味の方が的をえていると思う。学生のクラブが目指すのはレジャーとしての乗馬であってはならない。スポーツとしての馬術部活動を目指してもらいたい。

馬術部が、他のスポーツクラブと異なるところは「馬」という生き物を扱うことだと思う。ただ単に、馬に乗ることが学生が目指す馬術ではない。馬は利口でとても繊細な神経を持つ動物であるから、部員全員が馬の一挙一動に細かい配慮をし、愛馬精神を持って万全な管理をすることが学生の馬術部にとって一番大切なことでほないだろうか。馬は馬術部にとつて大切な財産であり、決して道具ではないということを忘れてはならない。

馬術は、とても興行の深いスポーツであるから、馬術には終着駅というものがない。それだけにたいへん難しいし、言葉で表現しきれないものがある。しかし、問題が難しければ難しいほど努力のしがいがあり魅力があると思う。幸い馬術部には阿部先生という立派な指導者が居られる。部員は、先生の指導のもとで、自分が団体活動の一員であることを自覚し、お互い協力しあい全員が足並をそろえて、学生馬術の真髄を探究してもらいたい。

久しぶりの馬場

内山 えり子

冷汗、息切れ、心臓の音。これが卒業して半年後に馬上の人となった私の姿である。なんと嘆かわしい。それまでは九月のさわやかな朝の中、さっそうと馬に乗っている姿を想像して来たのに。こんな筈では絶対にならない。一人でそう思つて馬の上から回りをチラッと見る。下級生が私の横を涼しい顔で駆けぬける。ああダブルパンチ。この様は一番恐れていたのに。年の差をハッキリ見せつけられて疲れが倍になる。卒業して一度も馬場に来ない皆様、笑つてなんかいられませんよ。絶対私と同じ冷〜汗の口なんだから。

でも、どんなに乗る事がうまくいかなくても、運動後のあの気分は同じ。なんといいえないものが体全体を包んでくれる。朝のすがすがしさ、運動後の充実感「自己満足かな」。一時間前のあの眠たさが信じられない。来てよかった、とこの瞬間だけは思つた。現役とも肩をはずしにしゃべれるし、馬場とは何十

年経つても「やあ、よく来たね。」と迎え入れてくれ、学生の時とは違った何かを与えてくれる所だと思う。

お肉、しらたき、おとうふ、そしてお酒の臭い。網島十二時半の顔がここにある。何も言わずに食べている。「そう……みんなあの頃と同じ。」この眺めは人変われど毎年くりかえされている阿部先生の部屋の中。そんな座の中に身を沈めていると学生だった頃の事が浮かんでくる。さっきの馬上の冷汗なんてどこかへ飛んで消えちゃって、一人で悦に入っている私。一、二分、我に返ってお鍋をのぞけば……。そう、ここではまず食べなきゃ。想いにひたるのは後、後、後。

社会に出て、自分と違う考えの人を見ていいなと思ひ、違う運動をやってきた人に魅力を感じたり。でもやっぱりホツとして甘えられるのは馬術部の仲間、そして馬場。ほこりとワラにまみれている、あんな所が、と思う人ほ是非一度来てみて下さい。特に女の方々に。

いつもせかせかしている社会からたまにはあの馬達の澄んだ目を思い出し、これからの陽気の良さに魅かれて来てみてください。自分の歩いて来た道をふりかえるのもいいもの

ですよ……。

玉木獣医とのお話

高津 彦太郎

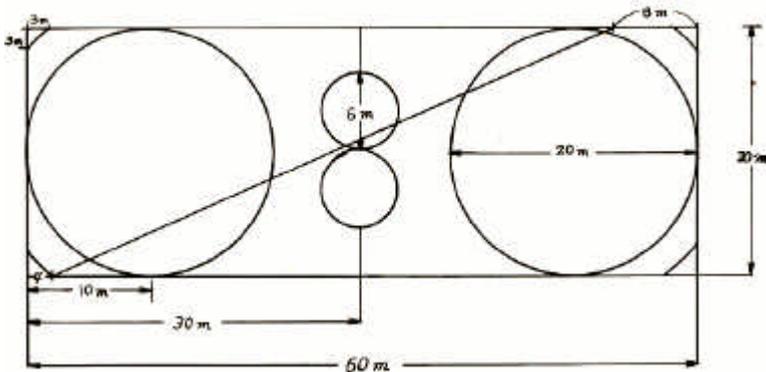
運動の方法と馬の形はこの様にして乗りなさい。真すぐな蹄跡を歩いて馬術部に足跡を残してください。(図説、Ⅲ)

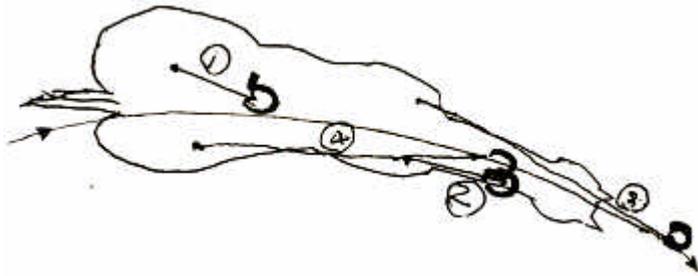
馬の停止と馬が立っている事とは違えます。馬が自由に立っている時は、いずれか一つのあしを休めています。正しく立っている時は前四分(一、二、二)後に三分(一・五、一・五)で体重を支えています。従つて馬の体重(重心)は前の方に一分かたよっています。

馬は前肢で体重を支え、後肢で前に行きます。なるべく馬の重心の上に乗る、理にかなつた乗馬を心掛ける事が肝心です。詳しく云いますと下記の様になります。(玉木衛先生のお話し)

前肢又は後肢の運動を検するに、恰も”人の歩行する場合と同様である。例えば右側の胸筋又は背最馬筋等の作用により重心を該側

図 I





に移動し、右脚を以って支える間に左脚は前進を開始する。即ち上部の関節より、次第に下部に及んでこれを屈し、左脚を挙げて肩を中心とし前方に振り出し、次いで下部の関節より、漸次上部に及んで伸張し、前下方に向って十分に伸張着地する。此際、右脚は蹄を回転の中心として肩を前方に振動し重心（負重）を前方に移動するのである。次いで重心を左側に移し、前と同様の動作を行う。

之を要すに、各肢の運動は、一、去地期、二、前進期、三、着地期、四、負重期の四期を順次反復するのである。

馬の如き四足獣では、各肢の運動する順序様式、即ち歩様は極めて複雑であるが、其歩様の如何に拘らず後肢の運動期は、常に対角前肢のそれに続き、前肢の運動期は同側後肢に続くものである。（図説）



Lippizan

MANS KNIT WEAR

紳士のおしゃれ

有名百貨店で

銀座メリヤス株式会社

〒103東京都中央区日本橋3-5-15
TEL. 03-662-2956

馬場の一日

矢野 真理子

網島。午前四時半ごろ一だれからともなく起き出していった朝起き野郎が迷惑顔の馬を引っぱり出す。馬場の一日がここに始まる。新馬はもちろん、試合を控えた古顔の馬もこの朝一番の練習がポイントというところで、熱気がこもる。そのうちのOB方々も顔がそろい、あたりも白々と明けてくる。

六時半：「おはようございまーす」元気の良い声とともに女子部員のお出ましである。狭い洗蹄場に、エツチラオツチラ重たい寝わらを広げる。人数が少なくと重労働のこの作業である。「集合！」のかけ声で、人馬ともに馬場に整列。馬装は寝わらのかたわらやるので、時々毛布に寝わらがついていたりして、おこられる部員もいるのである。キャブテンが馬わりを決めてさっそく一鞍目の練習が始まる。たいていこれは下級生で、部班を組んだ場合、号令者によっては「距離をとれ」だけしか言わない事もある。馬も眠そう、人も

眠そうでは練習にならないのである。泊りの男子は朝一番の練習の時にしつかり乗せてもらう場合が多く、部班運動はそのためか男子は下手である。二鞍目からは使用馬匹数も減ったりするせいか輪乗り運動が多くなる。同じようにきれいに回るのは、なかなかむずかしく、号令者の目がまわるだけで終わることがほとんどという話。下級生のチンタラした練習をよそに、朝練の延長組が障碍をビュンビュン飛んでいる。下級生の羨望のまなざしを敏感にも受けとめるOBや上級生がたまにいて、行く気ムンムンの馬に乗せて飛ばしてくれることもある。下級生はこの熱いまなざしをまず会得せねばならないのかも知れない。さて、あがつた馬の手入れや飼いつくりなどで、あつというまに午前中が過ぎていく。下級生は学校へ行ってしまふ者が多いので、人手不足の時は上級生ものんびりしてはいられない：：：はずなのだ。

午前当番も解散した昼さがり、手入れを途中でほうりだされた馬がのんびり日なたばつこをしている。犬のボン子もポロ小屋でぐっすり：：：とまもなく午後当番が始まる。残った馬の手入れや寝わら作業、馬具庫のそうじ、飼いつくり、夏はこれに草刈りが加わる。ダ

ラダラやっているといつまでたつても終わりにそうにない当番も、一人やる気をおこしてはじめれば活気づいて、あつという間に終わってしまう。すべて終わった後責任者が各馬房をまわつて戸じまりを確認する。とつぱりと目が落ちる頃には、阿部先生のお部屋で楽しいおしゃべりとお酒のひとつきである。先生御自慢の手料理や、めずらしいお酒に話はずむ。高津さんも帰ってみると、ひときわにぎやかになる。男子は高津さんのあすの一番練習の話に耳を傾けるし、女子は阿部先生にこぶしのにぎり方について必死に質問したりしている。馬上以外で馬術を知る絶好の場所はここにあり、というわけらしい。

皆がひきあげた後、泊り当番がさびしく二人で馬場を守る。一〇時、三時と二回の飼いつけは慣れた人でも大変である。女子は先日の合宿で泊りをやってその苦勞を味わったようであった。本当に男子諸君は御苦勞様なのだ。三時の飼いつけが終わつて一時間半もすればまた馬場の明日が始まるのである。

馬場OBの方々へ

三村 のりこ

三谷さん、原野さん、高橋さん、板倉さん
末金さん、その他馬場OBの皆様、毎日あり
がとうございます。この場を借りて一言現役
の感謝のことを述べさせていただきます。

現役では手にあまる馬の誠教や我々の指導
の為、馬場の近くに下宿屋まで借り毎朝通っ
てくださる先輩方の姿を、我々は驚異と尊敬
のまなぎしで見えています。下級生の中には自
分達が来る前に馬をまわし、さらにそれに乗
つてから会社へ出かけていく先輩方の顔を知
らない人もいるかもしれません。

私達は朝早く起きる苦しみ(?)は四年間
で十分だと思っているし、男子部員は泊まる
くらいなら四時間かけても家に帰ると宣言し
ます。それなのにそれを敢えてする人がいる
のです。しかも私達はうめあわせに学校で寝
たり、あるいは全然学校へ顔を出さずにダウ
ンする場合があります。OB方は会社へ行く
のです。会社で睡眠時間はとれるのでしよ

か。その上彼らスーパーマン達は夕方になる
と昼間の疲れも見せず先生の室でくつろぐの
です。

去年の一月、寒くきびしい朝練に参加し、
我々学生を全員馬に乗せ、自分一人障害作り
から箱番までグシャグシャな馬場を走りまわ
つてみてくださった高津さんを馬上より涙を
浮かべて見ていたものでした。"どうしてこ
んなにしてくださいるのだらう。ヌクヌクと寝
ているべき時間なのに..."。そして、ともか
くもこんなすばらしい人達がいる馬術部にい
ることに誇りと喜びを感じている次第です。

馬場OB、そして馬場にはいらっしやらな
くても常に我々現役と馬を見守ってくださる
OBの方々、今後ともよろしく御指導の程お
願ひいたします。我々も、いつの日か先輩方
のようなりつばなOBになるよう努力いたし
ます。



地方出身の馬術部員

井上 和宣

二、三日前、上級生から今度「いななき」
を編集するから、地方出身の部員として何か
意見を載せてくれないかとたのまれた。地方
出身などと言われてもいったい何を書けばい
いかわからないと聞き返えすと、部員であ
るがための生活面、特に金銭面でのやりくり
の苦しさを切実に表現すれば、なんでもお金
の使い道に困まっているOB、OGの方々が、
クラブに寄付をして下さると言うのである。
そういうことなら、微力ながら自分の持つて
いる文学的表現能力をフルに發揮し、少して
も多くの寄付を得るために一肌脱ごうと、今
こうしてペンを執っているのである。私たち
地方出身者が一番頭を悩ますのは、やはり、
お金のことである。親の生活状態が多少なり
ともわかる年頃になった私たちにとつて、毎
月仕送りをしてきている両親に、お金があ
くなつたから送ってくれなどは、そう何度
もたのめるものではない。そこでいつも何か

適当なアルバイトを捜さなければと考えるのだが、当番、泊まり、競馬場のバイト、また試合もあり、毎週何曜日から何曜日まで、月何回などと決められない。こちらの都合のいい時だけやらしてくれるなどの雇主は、こんな時世の中、なかなかいそうにもない。結局捜すだけで終わってしまうのが現状である。しかし、入部したからには、中途半端なことはしたくない。これからの三年間、悔いの残らぬよう自分の力の及ぶ限り、馬術にかけてみようと思っている。苦しさにも負けず、馬を愛するがために毎日、馬場に足を運んでいる私たちのために、またかわいい馬のために、我が馬術部に多大なる御援助を寄せられんことを期待してペンを置くことにします。



女の子の立場から一言

上山 千恵子

馬術部には、「馬術部の色」があるので。それはもう気どりのないポロ山の色。茶というが黒というか。「どつでもよるしい」
ユニークなクラブです。

馬は生きているから、お世話しなくてはなりません。御存じとは思いますが、馬は大きいので、それが大変。

女の子が、そのか細い腰つき(?)でチンタラやっていると、男の子が見かねて、やってきて、ヨッコーやってくれる事があります。当然、男の人の仕事というものがあります。

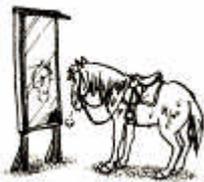
「それが非常な比率ですが」

そこで思うに、馬術部は、一つの家族なのです。男の人が「夫」で、女の人が「妻」で上級生が「親」で、下級生が「子供」と言ってみましょう。そこには「甘え」というものは在りません。「思いやり」があるだけです。各自、自分の目で、「何か私にできる事はなにかしら」と捜します。男の人が力仕事を余

計にやって疲れきっていたら、女の人が、オタして握ってあげるのです。下級生がオタしていたら、わかるように教えてあげるのです。下級生はそれを目を皿のようにして覚えておくのです。

皆、そういう風に思っていてくれるかしら。そうだと本当によいと思います。人を恨む事も、おごる事も無いでしょう。

追伸「皆さん、物を使ったらすぐもとに戻しておきましょう。ほんのちよつとの事で気分がいいし、諸々の手違いもきつと省けますから。」



阿部先生近況

O B 待望の阿部先生の近況を報告させていただきます。先生は長年青学馬術部のコーチとして馬場に住を居き、部員を見守ってください、又、不可能を可能とする調教師として青学の馬を調教してくださいました。

しかし昨年（S 50）四月、ノーバ騎乗の際厩舎の後ろにある橋を工事している音に馬が驚き立ちあがった為、先生は落馬し、腰に負傷され、入院しました。

続く一ヶ月は部員にとつて忘れられない不安な時でありました。幸いにも、それほど重傷ではなかったとはいえ、高齢であり、それでもお体が心配だった為、いつたい先生はもどってくださいのだからか、いや、たとえもどってくださいとしてもそんな御好意に甘えてはいけないのではないかと考えました。

しかしながら、一ヶ月間の状態は明らかに先生がいらつしやらなければならぬ事を物語っているのです。

午後当番が終わっても、「お湯がわいてるからコーヒー飲みに来い」と声をかけてくださる方はいません。「あのう……どうしても馬の首がまっすぐならないんです」「コもお手のあげの時、最終的に頼っていけるところはありません。日曜日、練習後先生を囲んで行なっていた品と現役のドンチャン騒ぎもなんとなく白けて……

しかし、一番大きな痛手はもつと内面的なものでした。先生は練習中、よく馬場の隅に椅子を出して見てくださるのですが、その姿は、たとえ何の注意をしてくださらずとも部員にとつては心強いものでありました。

“先生が見てくださっている間は大丈夫”とそれぞれが思い通り運動できるのです。

今回の事故で部員一同はつきり認識した事はもつと大きな先生の力です。それを経験と呼べばいいのか先生の人格と呼ぶべきかはわかりません。ともかく、先生がいらつしやる事、いえ、いらつしやると思うことが我々に大きな支えとなつていのです。

うれしいことに先生はもどってくださいました。そろそろ馬に乗ってみようか、などとおつしやってくださいます。そんな好意に甘えてはいけないのかもしれませんが。先生の御家族は心配しているし、綱島ときたら人間が住むには最低最悪なですから。

しかし、それでも我々は先生がもどってくださいつてよかった、と思わずにはいられないのです。

阿部先生、どうかいつまでもお元気で、我々と馬達を見守ってください。



馬術部今昔

「いなゝき」

に

寄せて

梅本元子

私は、この伝統ある青山学院大学馬術部・女子部員の名誉ある第一回卒業生の一人でございます。当時、厩舎は緑ヶ丘本校の、今は視聴覚教室のある辺りに、倒れんばかりの、ぼろ小屋があり、青峯というがりにやせた反撞の高い馬が一頭いまして、大学から中等部までの部員が交替で乗り廻して、今から思うと大変かわいそうでした。でも乗馬の魅力と部全体の楽しい雰囲気にかかれ、夏は、鎌倉合宿、冬は御殿場、山中湖遠乗りと情熱はエスカレートするばかり。その後、馬房はブルーの横に移り、青妃、青波と新馬も増え

女子部員も下級生が入部したり賑やかになりましたが、当時の馬達は、我々女子には、技術的に乗りこなせなく、女子部員だけで、パレスとかアパロンへ練習に行つて馬術の醍醐味を少しつづ覚えて行きました。初の学習院女子との障害競技を行ったのはこの頃と記憶しております。

このようにして馬術への情熱が頂点に達した時、女子学生馬術大会を開きたいと願うのは当然の結果でした。各大学馬術部女子部員に働きかけ、何しろ始めての試み故、当然、反対校もありましたが、幸い、慶応、早稲田日本、中央、法政各校の参加が決定。他に、参加したいが女子部員が一人しかないから残念ながら見合せるとか大きな反響がありました。種々紆余曲折はありましたが、元来、馬術界の方々はフエミニストなのでしようし、馬術連盟、馬事公苑、パレスクラブ、各校OB、その他各方面の御好意と御協力の元に、第一回関東女子学生馬術大会は開かれたのでした。この時、会長を引受けて下さり資金面等の問題を解決して下さった当時の、大丸デパート店長、田中正佐氏には深く感謝しております。これらの努力が今日の女子学生馬術発展の原動力となっているとしたら、

大変嬉しいことでございます。

時は流れて、今、綱島の総合グラウンドに、恵まれた環境の下、優れた先生方の指導を受けて練習に励んでおられる現役の諸氏諸嬢にたまに訪れて、馬と人間の汗する練習風景を見る度、馬術に寄せる同じ情熱が確実に引き継がれるのを見、新たな希望に深い感動を覚えます。

今は昔の物語

藤根 威

一年生も終りに近づいた頃、一級上の米谷宮坂の両氏、私、東、村野（以上男子）、平木、福原、梅本（以上女子）の両指にも満たぬ部員になってしまった。加えて所有馬は三頭、馬糧屋への借金は三十万（今の金で三百万〜四百万?）、部の年間予算は三万円、部費月五百円、馬糧屋もとうとう入れてくれなくなった…もうどうにもならなくなった…。

その頃の緑鞍全会長青木真次先輩のお宅へ伺った米谷氏と東が夜遅く泣きながら部屋に帰って来た…「そんな部なら一時部活動を停

止したらどうだ」……と言われての帰着と言う次第……会長とすればこれから先の学生の苦勞を考へての親心からの發言である。

何しろ百円あれば一日を過せた時代である……かけそば十五円、しんせい四十円（最近値上りしたがタバコはあまり変らない）、理髪七十円から（但し村野が本職なので時々無料）学院前を走っていた都電が往復十五円、映画五十円、「ニュース映画十円」等々である。

思えば我等仲間はどうしてと考える程全員貧乏人の集り……その百円もなく、他人のフトコロを当てにし全くその日ぐらしの毎日であった……どうしたら部を存続させられるか……

「東、お前主将になれや、俺は会計をやる」

……「藤根、あと何人位部員を減らせる？」……

「もう駄目だ、これ以上減らせないよ……あまりしぼるなよ」……一級下の市原、大島、三級下の渡辺等からよく苦情が来た、「もっと厳しくやって下さい」……。「そのくせ合宿中厳しすぎると東が入浴のスキをついて、東のお茶の中に唾を皆で入れて飲ませる様な事もあったっけ」。

「君い……オカラの栄養はどの位あるのかね」……「ハッ？ 兎が食っておりますので……多分馬も……すぐ調べてまいります」……何しろ怖

かった青木会長……結局トウフ屋も解らなかつた。

健全財政から良い部にとの方針から方々への借金を卒業までに返済……そして下級生にパトントツチ……馬糞屋へ借金返済方法を交渉……ワラは学院前のセトモノ屋から、ソバ屋からソバ湯を、と考えられる所は全部交渉してみた……ネワラが無く落葉をかき集めた……映画のアルバイトもやった……馬の出演料二千五百円人間八百円……学生食堂「どんぐり」のオバさんが可哀想にとサンドウィッチの耳を馬にとダンボール一杯いつも持って来てくれた（これだけは馬の口にくわえに入れて入らなかつた……何故なら我々の口に入ってしまったので）。

茶腹も一時というが、オカラ腹では馬もたまらない……柱はカジる、放馬してシユクスピア・ガーデンのクローバーを食い荒す……試合前の強化練習には三百〜四百個の障害飛越……可哀想に……だから上級生は沈静運動、と言つても並歩ばかり……遠征なんて思いもよらなかつた……勿論騎乗者自体も馬装も……何しろ稲毛屋で最低の長靴でも八千円だつたと思つ……皆恋文横丁の古道具屋で五百〜千円の長靴を見つけては直してはいていた……乗馬服は学生服の背中を割つて（そう言えば今では背広でも

背割は当り前で割れない方がおかしいが、当時はまだ見あたらずましてや学生服の背割など白眼視されていたフシがある……。……今の学生さんがうらやましい……俺も卒業してもう二十年……今思ひ出すと「泳げタイヤキ君」……毎日毎日楽しいことばかり……である。……返らぬ青春……最近学生さんに会つてみるとつくづくそう思う今日この頃である。

追記

俺にも責任があると言つて仕送りの中から節約し、自分は腰弁当でその分部に廻してくれた上、卒業式の日も一年部に居たいと卒業免状を私達に確かめさせてからわざわざ教授の所へ行つて一課目落してもらつた一年先輩の九州男子、米谷氏。愛称「レオちゃん」いつも嫌な顔ひとつせず親身に我々の相談に乗つて学校関係、諸先輩の間を駆け廻つてくれた植松先輩……愛称「マツチャン」。

数ある部の借金の中でとうとう返さずに踏み倒した事をネにもつて今だにゴルフで私から利息つきの上取り上げる沈先輩。

電話の掛け方一つにも礼儀作法をと、……いつもビリビリさせられた青木真次大先輩（今でこそ気楽にお話ができるが、学生時代は本当に怖かつた）。

いつも私共の後始末に追われていた土田三千雄教授（旧馬術部部长）

何で俺の名前を：とおしかりを受けると思いますが何しろ諸先輩に一番御迷惑を掛けた時代：お名前を挙げるには紙面不足：総会の席で改めておしかりを受ける覚悟でありませぬ。

馬部今昔

稲能 武 臣

数えて十年である。体のあちこちに余分な肉が付き、今、乗ったとしたら鞍の上で、左右上下とよく弾み、揺れることであろう。同僚の一人がこの二月、殿りを務めて結婚した。凡そ千人の馬仲間がよばれた。先輩、後輩、北から南から集り、久し振りに会った。その中の一人にとって、忘れられない思い出の場所、昔の情誼として今はないのだろうか、中村遊廓のある名古屋での事であった。

中には、十何年振りに互に顔を合わせた人も何人かはいただろう。私を含めて四人が前日、集合した。そして、交わす言葉もそこそこ、ボンチイが始まった。楽しいやりとり

である。幸い場所と食べ物と酒を提供した私の同僚は、どうにか勝ったようだ。夜も十一時を過ぎる頃、相も変わらせず、そわそわもぞもぞ、そして昔のままに、行きつく所は、お定まりのコースである。

現役の人たちとの付き合いが、数少くなくなってきた。仕事の忙しさに、又家の事にかまけて「つい」という事なのである。年に一回の初乗り会には、今年を除いて六年程前から、顔を出してきた。七夕でもあるまいしこれではちとさみし過ぎ、現役の人達にして、付き合いづらいのかも知れない。

この十年の間に、名古屋に集まった十人それぞれ、色んな道を歩き、色んな事をしたことだろう。今は昔と、互いに学生の頃を懐しみ、当時、喧嘩をし、楯もつき、果ては恋の鞘当てをした事どもをさらりと水に流し、先輩・後輩入り混じつての、久し振りの顔合わせに、話が弾むのも、「同じ釜の飯を」の仲間がなせる、楽しくもまた、年を感じさせるいたづらなのだろうか。

而して一句……

今は昔とことわれど

今も昔も変わりなき

竹馬の友と同釜の仲

馬場で拾った話

初乗り会で

大塚 真理子

ある学年度卒業の男子諸兄は、緑鞍会主催の会には、今まで全てと言っても良いほど、熱心に参加していらしたのですが、なんと、今回の初乗り会には、たったのお二人しか、馬場にいらつしやらなかつたのです。しかもその貴重なお二人の方々と言えば、夫子（？）ある私でさえ、会がおひらきになるまで、つくつく綱島の馬場のなごりをおしんでいたというのに、御一人の方は、

「お先に失礼します」と、途中で消え、その後に入れ代りにいらしたもう一人の方は、愛する妻子を共なつての御参加。「その赤ちゃん、が、奥様に似てかわいらしかったこと！」何故、あの様に熱心であった方々が……と

不思議に思い、ある下級生に尋ねたところ、
「それはもちろん、皆さん新婚さんですもの、無理はありませんよ」との返事。
なるほど、そういわれてみれば、初乗り会での先輩、後輩諸氏の方々の多くは、結婚年令の多い方が、独身者の方々のようでしたものね。一

最近のスポーツ界について感じた事

内藤喜嗣

先日、冬季インスブルックオリンピックが終った。一大デリゲーションを組んで参加した日本選手は入賞ゼロの成績で、閉団式で万才もできずに解散した。この事を国民はどう見たらどうか？多額の費用を掛け、意気揚々と出発した選手の写真を新聞、テレビで見るとさらには残念と言うよりあわれと感じたかと思う。これはなんなのであるうか。

世界のレベルが高く壁が厚いことは確かだが、日本の選手の水準の捕え方が問題だ。人間には、その人それぞれにリズムと言うものがあり、これとその人の能力、たゆまぬ

トレーニングによってつちわかれた体力・技術・カン、さらに大会に合わせたコンディションの調整、これらが一致した時に初めてその者の最高の記録が期待できる。しかし大会では、そのほかにグラントコンディション、氣候等の条件やさらに大きな大会に対する精神的プレッシャーが記録の足を引っぱるものである。したがって、良い記録が出た時は、これらの複雑な条件が合致した時であると考えるべきである。だが日本の競争の激しいマスコミヤ協会は、ニユースの不足もあるが、あなたがこの選手の真の実力であることと取り上げるため選手も回りも錯覚し、この記録が自分の実力と受け取る様になる。夢よもう一度と期待は大きくなるが、しかしこの様な複雑な条件の一致はほとんどまれにしかおとずれない。偶然の記録を信ずる民衆の期待が選手に重くのしかかり、再びプレッシャーを増す結果となるのである。

そこで日本の選手がなぜ勝てないか、これを考えるとき思い出されることは、東京オリンピック陸上八百メートル競走で十秒フラットで優勝したあの黒い弾丸ヘイズが、実は度々九秒台で走っているのだと言った事である。

世界記録以上のタイムで走れる実力を持つ

ている大選手であつても、大会に於ては「自己のベストを出すのは並大抵の事ではないし、ほとんど出せないと思うほうが正しい。したがって選手や協会の幹事は選手の普断の記録を冷静に捕え、そこからあるレベルを差し引きしたもので、世界のレベルに通用するかを見つめるべきである。

日本にも非常にすぐれた選手はたくさん居るが、現在の様なマスコミ・協会の考えでは選手の成長を止めるばかりか選手生命を短かくし、絶つことにつながり、日本のスポーツは世界のレベルから取りのこされてしまうのではないだろうか？

馬術は人と馬の一致がさらに望まれるわけで、馬の鍛錬・調教と合わせて、選手の体力技術をより一層高めてほしい。今の競技レベルは、馬及び選手のレベルより跳び上つたものになっていると思う。



城戸俊三先生のことども

井上生

愈々八十八才の米寿を迎えられ、遊佐先生亡きあとわが国馬術の最高峰として今年もフロントリールオリンピック選手の指導をされている城戸先生。又われわれの総会にたびたびお見えになったり、折にふれ綱島まで来られて私達に馬術の真髄を教えて下さる緑鞍会名誉会員の城戸先生を今さら御紹介するまでもないことだけど、ごく若い人達のためにあえて「いなゝき」のページをかりることにしました。

先生が昭和七年ロスアンゼルスでの第十回オリンピックに出席されたときの実話が小学校の国語の教科書に掲げられているだけでなく、当時このことに感動した米国人によつて記念の碑が建てられ今でもカルフォルニア州リヴァサイド市の公園に立派に飾られています。うことを知っていてもいいのです。

先生はたいそう謙遜な方で、さわがれるのがおきらいだから多くの功績や美談もいつ

しか埋もれ勝ちなのが惜れます。だけどその埋もれた種が今年に日本で芽が出て、外国に育つて、そして何年かたつて又日本で花が咲くにちがいないことを信じています。

昭和二十七年七月三十日

文部省検定済

小学校国語科用

小学校国語 五年上

勝利をすてて

これは、二十年余り前、昭和七年の話です。

ロスアンゼルスに開かれた第十回オリンピック大会は、今、たけなわでした。その日は、馬術競技が行なわれる日で、全世界の名選手たちが、美しいわざをきそうのです。

わが国も、この競技に、城戸俊三選手を送っていました。城戸選手は、当時、

日本の馬術会で指おりの人だったので、競技の火ぶたは切られました。何万の目がいつせいに選手たちにそそがれました。

百メートル、二百メートル……土けむりをあげてかけて行く馬と人に、日ざしはさんさんと照りそいでいました。わが城戸選手のわざは、その中でも、ひときわかがやいていました。人と馬とが一体になって、まるで一つの生き物がかけて行くように見えました。しようがいごとに、いく人かの選手が失敗して、つぎつぎに減点されましたが、城戸選手は、ゆうゆうと飛びこえ、通りぬけて行きました。日本の入賞への期待は、かなえられるかと思われました。

ところが、そのうちに、見物人の間から、小さなざわめきがおこり、水の輪のように伝わっていききました。城戸選手の馬が、しだいにつかれてきたようです。

「たのむぞ、たのむぞ！」

見物の中でも、日本人たちは、気が気ではありません」手にあせをにぎつて、城戸選手と愛馬のすがたをみつめていました。馬はますます苦しうにあえいで

います。しかし、さすがは城戸選手、その馬を、よく乗りこなして行きました。いよいよ最後のしょうがいにかかりました。これ一つこなせば、勝利は確実と思われました。

「最後だ。がんばれよ！」

ひたすら勝利を願う見物の日本人たちは、もう、いても立ってもいられず、手をふり、足を鳴らし、けんめいにおうえんしました。

けれども、この時、馬はもう、まっ白にあわをふき、つかれきつたようでした。でも、つかれたとはいえ、この馬も、城戸選手が長い間かわいがってきた名馬です。ひとむち強く当てれば、なんとしても、この最後のしょうがいをとっばしにちがひありません。

しかし、城戸選手は、むちを当てませんでした。そうして、じつと、愛馬のようすを見ていましたが、つかれきつた馬は、しょうがいのそばまで来ると、そこで力つきて、びたりと、止まってしまいました。

城戸選手は、だまって馬からおりました。そして、トラツクの外へ、静かに馬

を引いて行くと、やさしくその首をたたいてやりました。ちょうど、愛するわが子の、病気のまくらもとにいる母のようなまなざしを向けながら。

馬も、わびるように、鼻づらを、力なく城戸選手のかたにすり寄せました。

見物人はいつせいに、はくしゆを送って勝利をすてて馬をいたわった、この真の勇者をたたえました。

私はこの碑文「本紙とびら参照」の最後の
**HE HEARD THE LOW VOICE OF
MERCY, NOT THE LOUD ACCLAIM
OF GLORY** を読んでいるうちに胸がジーンとして来ます。

又思い出されるのは一昨年母校百周年記念と偶然にも時を同じく達成された馬術部の優勝記念の学校との合同祭が行われ、多勢の来賓を前にして城戸先生が現役に対してたった一言の祝詞を下された。

それは「皆さん、優勝はんとにお目出とう。ただこのことの裏に阿部先生のいることを忘れてはいけません。阿部先生が青学にいるということは皆さんの大変な仕合せです」と。それにつけても、私達が母校で培われた

「一粒の麦」のおしえを思い出すのです。



OB伝言板

昭和三十一年 梅本元子

現在はもっぱら仕事専門。時には馬場へ行つてみんなの顔がみたいな。

昭和三十一年 村野吉昌

元気で過しております。

昭和三十三年 安藤節子

学生生活、特に馬術部を通して得ました勇氣と障害飛越の経験を、今家事と育児上の様々な障害の乗り越えに役立たせていただき、人生での人転、落馬にもめげず、主婦業失権なき様、ガンバッテ居ります。

昭和三十六年 平中三彦

生来の放浪癖が幾歳になっても治まらず、好き勝手な生活を送つて来ましたが、そろそろ年貢の納め時らしく、津田考株式会社を後継する事になり、目下「ヘアーフラシ」の製造販売に精進して居ります。

昭和三十七年 提 義則

緑鞍会の行事に参加し、現役の活動ぶりを知りたいと思つています。

昭和四十一年 山田恵道

小生もまだ現役のつもりで毎日馬に乗つて居ります。また、近く競技会であなた方と会えるのを楽しみにして居ります。

昭和四十一年 篠原敬明

御無沙汰しております。近いうちに一度上京したく思います。

昭和四十六年 伊納保夫

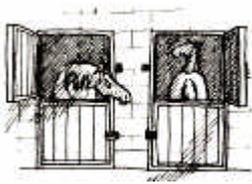
一年半前より台湾支店へ転勤致してこちらは留守致して居ります。この二月二十六日結婚致し二人で今台湾に居ります。今後ともよろしくお願い申し上げます。

昭和四十八年 屋城孝一

子持ちになりました。生後五ヶ月の彼女の名は「マージャン」の「麻」に希望の「希」。麻希子です。どうぞよろしく。

昭和四十八年 佐倉有美

二週間程前、平井恵美子さんとスキーへ行ってきました。彼女も全くなつていません。最近馬場の噂話にうとくなくなつています。いろいろ聞かせてくださいな！



聞いてください

こちらでキャバレッティーをまたいでいるかと思えば、あちらでは障害飛越、こつちと向うで調馬索運動。その間をぬって部班が通り、その横を各個乗りの馬が逆手前で駆け抜ける、という調子。とにかく狭いのです。

きょうもまた、ラグビー部の人にイヤミを

言われました。小さな馬場に十六頭の大世帯、いきおい沈静運動中の馬などは外にはじき出されてしまいます。あんなに広々としたグラウンドなんだから、ちよつと位隅っこを使わせてくれたって……このケチーと腹の中では思いつつもそこはあくまで低姿勢。

渋谷から三十分という立地条件からあまりゼイタクは言えませんが、せめてポニーリンクひとつでもあれば……と思うのです。

学校から支給される砂は年間五十トン。で

も綱島の無情な風は、その貴重な砂を容赦なく吹き飛ばしていきます。馬場が硬いために障害を飛んで足を痛める馬も出てきますし、風の強い日などは風下にあたる家のおぼさんが、恐しい顔をしてにらんで窓をしめるのです。近所からの苦情も無視できません。

一昔前までは、一般の競技会では学生が上位を占めたものでした。最近ではすつかりレベルが上つてしまつて、学生の出る幕はありません。近頃の学生は根性が足らんよ、と言つてしまえばそれまでですが、出場してくる馬を見ると、資力の違いをまざまざと見せつけられる気がするのです。

八名戦のトーナメントともなればもうたいへん。なにしろ乗らんは四着きり、その乗らんを取つかえひつかえ順ぐりに廻さなければならぬのです。閉会式ではどうしようもなくて、みんな学らんを着て出ました。ラムネが缶コーヒーに変わり、押し切りがカッターに変わつても先だつ物に変わりは無く、それが無いのも変わりません。いつの時代も馬術部は慢性金欠病のようです。

それにしても、馬というものはどうしてあのように消費的な動物なのでしょう。せつかくの新築の馬房も、扉という扉はみんな力じられ、満足にしまるのはひとつも無いという有様。扉よりも梁を好む馬の馬房などは、天井がたわんできて遠からず落ちてきかねないという具合です。

水道管も馬場も凍る冬。ドラムカンで湧かした錆だらけのお湯とは言え、馬にとつても人にとつても必要不可欠な物です。そのおかげで苦労して作つた支柱も、せつかく赤と黄色と緑にぬり分けた「字も、みんなマキと化してしまいました。

何だかんだと言つても、最後にお願ひしい事はただひとつなのです。OBの皆さん、もつと馬場にいらつしゃつてください。馬に関係ある事でも、関係ない事でも、皆さんの貴重な体験を後輩たちに伝えていていただきたいのです。

高等部紹介

なかなかできないので、合宿などの効果はたいへん大きいものです。昨年度は三年生が一人もいなかっただため、試合、クラブ運営などの点でいろいろたいへんな事もありましたが今年度から、三年生そろってスタートです。より充実した練習を続けていきたいと思いません。

土曜日、四時間目が終わると、これからゆつくり週末を楽しむ友だちには目もくれず、いそいそと渋谷駅に向かう人たちがあります。12時45分渋谷発、桜木町行きの急行に乗らなければならぬのです。雨の日も、風の日も（試験一週間前を除き）

月曜日から土曜日まで学校に通い、土・日にクラブで、ゆつくり休める日は一日もありませんが、それでもみんな、一生懸命綱島までやって来ます。

さて馬場を見渡してまず目につくのは、一月のリーグ戦の関係で、頭を丸めた矢作君、ウィービーをいつもひとりじめしています。馬場で生まれた犬をひきとって育てている、心暖かいキャプテンです。その犬は、障導犬として調教され、たびたび高等部の集まりで飛越競技を見せてくれます。

それから、高等部の恐怖である、ジージャー

とラツクの手入れを進んでやってくれる副将の副島君、とても尊敬されています。

トリプル・チャンスの大好きな鈴木君は驚異的な力持ちとしても有名です。馬房の上から投げられた、数十キロの乾草を肩で受け取る事ができるのです。また、昨年の暮れから正月にかけての約一週間、自主的に馬場に泊まり込み、高校生ではたぶん初めてでしょう、馬場で年を越した記録を持っています。

溝口さんは青雫の熱烈なファンです。そのため青雫の騎乗数も多く、良く息が合っているようです。一見おとなしそうですが、周りでもありません。彼女の馬の接し方を見ると本当に馬が好きなんだなあと感じさせられます。

いつも忙しそうなのは大山さんです。幹事の仕事に加えて常にクラブの事に気を配ってくれています。彼女の明るさと行動力はクラブにとつてかけがえのないものです。髪が短く、ボーイッシュな感じですが、内面はさにあらず、女の子らしい人です。

馬術部で趣味の多芸さを誇るのはいさごさん。日本舞踊、三味線など、日本舞踊は十一年のキャリアを持っています。また、合宿の時、落馬をするとグラウンドを走らされるので

練習日 土（午後） 日・祭日

長期休暇中は大学と合同練習

指導 コーチ 今野幸夫（大学3年）

高等部の練習のほとんどの指導は、大学生のコーチによっています。号令もほとんどコーチがかけます。高等部では、土曜日、日曜日、祭日だけが、思う存分使える練習日なので、他の学校と比べるとても少ないのですが、そのために一鞍一鞍を、大事に乗るよう心がけています。合宿は夏に一回、綱島の馬場で一週間行なわれます。学校と馬場が離れていて、乗りたくても連日乗るといことが

すが、彼女は落馬して馬に足を踏まれたのに四百メートルトラックを十周以上し、後で医者でレントゲンを撮ったら、骨にひびがはいっていた、という驚くべき人です。

今病氣療養中の内田さん。彼女の根性は誰もまねできません。いつも人一倍仕事をし、

働いていないと気のすまない人です。障害の試合では大きな声を出して、根性で馬を飛ばせます。早くみんなのように元気に馬に乗りたいと、一生懸命病気をなおしています。

二年生唯一の男子の井上君は、馬歴が長いので試合では三年と共に活躍しています。

にぎやかだな、と思うと二年の女子で、メンパーこそ減りましたが、みんなしつかりした明るい子ばかりです。三学期からキャパリティを初めましたが、九人それぞれ頑張っ



高等部主将挨拶

矢作直也

このたび、この「いななき」に私の挨拶をのせさせてもらうことになりました。青山学院高等部、2年23組42番、矢作直也です。

えー、思い出すこと約2年程前、上級生といえは^〆年生しかいなく、男子といえは、当時、軟弱なる^〆名が存在を認めてもらっていました。「現在はそのうち、私のみつつげさせてもらっています。」そして、そのうち、3年生が引退をされ、主将らしいこともみなさまにささえられてやっと思えるようになり新入部員が入ってきました。まあ、幾多の困難をみんなといっしょにのりこえてくることができました。これもひとえに、天にまします我らの神のおかげと、かたく信じ、これから私と副島君で、大学に無事入れるようにのりをささげている毎日です。

このようなつまらないことをかかせていただき、本当に感謝いたします。アーメン

馬術部にはいつて

色部真美子

月日のたつのは早いもので馬術部に入って一年がたとうとしています。特別に馬術をやりたいと思っただけでもなく何気なく入部したのですが今になってみると入ってよかったと思います。

最初のうちは馬がこわくてクラブのある日がいやでした。それに今はもう慣れましたがあの何とも言えない匂いとポロ山もたまりませんでした。「何とかして楽をしよう」などとあさましい考えを持ったこともありました。

そんな私ですが合宿も試合もして二年生になろうとしています。あと一カ月もすれば新しい一年生が入って来て私達は今までのように上級生に頼ってばかりいられなくなりそうです。が今の私としては、もう一度最初に戻りたい気持ちでいっぱいです。でも二年生として恥しくないようになりたいたいと思っています。

そしてこれからもできる限りクラブを続けていきたいです。

合宿を思い出して

中島 かがり

「もう、やめたい」って思いつばなしの1週間だった。自分の馬匹の馬の手入れが、満足にできないどころか、やけいもかけられなかった。悔しくて涙が出た。乗っている時も、馬にはかにされつばなしだった。そんな自分が恥ずかしかった。

でも、あとから考えてみると、合宿中は、自分の心構えが違っていたような気がする。みんな、三時四十五分起床のために馬装して寝たりした。毎日毎日、まっ暗なグラウンドを長靴をはいて走った。

初めての合宿はとても苦しかった。でも、今思い出すと、参加してよかったと思う。



合宿の思い出

清水 文子

「今の部員全員グラウンド五周」。

コーチのおっかない声。むし、風呂の中みたいなグラウンドをまだはき慣れない新しい長靴で走るのです。顔はやかんに真赤になるし、体からふき出してくる汗をとめられるわけもないし…。走りながら、馬具庫の中でトイレに入って泣いた人もいました。夜、寝る前に足のまめにパンソーコーをはったり、グラウンドを走るのには本当に恐怖でした。

暗いうちに起きて目をこすりながら馬場まで走ったことも、夜おそくチャョーカーをみかけたことも、制限時間四分で寝わらを出したことも、泣きたくなるようなことばかりだったように思えるけれど、合宿の最終日には一週間があつという問にたつてしまったようになんとなく力がぬけちゃったようなところもありました。ようやくまめもできなくなつたと思つたら一年が過ぎてしまいました。

今年の合宿もみんなでがんばるつもりです。

巻乗り競争

入江 雅代

私の初めての試合は、慶応との巻乗り競争だった。あの時の私は、手綱も脚もろくに使えなかった。そして前日に、キャバレッティの練習を始めたばかりだった。そのためにあの日は、とても緊張したことを、まだはつきりと覚えている。一応なんとか勝ってきたものの、今考えれば、すべて青貴のおかげだったように思える。私はただ、馬の上のにつかつた、重りではなかった様な気がしてならない。

結局、あの試合は負けた。青山と慶応との差が、ありありと示されてしまった。同じ一年なのに、あそこまで差がつくと、ただ呆然とするばかりであった。気迫からして、比べものにならなかつた。馬をこわがらない強さも見のがさずには、いられなかつた。私は、慶応の人達を見ていて、あの気迫を見習わなければ、いけないのだとつくづく感じさせられた。

二年間を振り返って

大山 祥子

楽しいこともあったが、辛いことの方が多かったと思う。馬がこわくて、乗るのもこわくて、綱島が近づくとつれて胸が苦しくなるそんな時期があった。何をやってもだめで、怒られてばかりいた。ケガをして、それでも馬場に通っていたら、医者にはれて騎乗停止四ヶ月。朝はつらいし、練習もつらいし、行きたくなくてたまらないくせに、行っちゃダメだと止められたら、毎週たいくつでたいくつで、結局もとのもくあみ。そんな時もあった。ちつとも上手になれなくて、練習のたびに新たな絶望感に悩まされて(今でもそうだけれど)、その上にしかりとばされて、合宿中は誰かさんといっしょに、くじけてばかりいた。友だちとグラウンドを何周も何周も走った。気をまぎらそうって言って、夜だれかさんと一語に合宿所を抜け出して、真つ暗な馬場を自転車で行きまわっていたら「実は、B馬場を踏んでいた」、見つかって死ぬほどお

こられた。つらいことばかりだったと思っていいたら、全部うれしい思い出にかわっている。あともう少し……。一年生はあともう少しプラス、+もつすこし、みんながんばって!

高等部 試合記録

対日大桜ヶ丘戦 S 49・12・6

青山学院 日大桜ヶ丘

斉藤 元伸 青貴 丸山 智美

矢作 直也 -0 青蓮 加瀬 幸祐

糠谷 拓 -20.5 青隼 坂田 静代 矢権

男子の初めての障害の試合でしたが、自馬ということもあって、勝ちました。

新人戦 S 50・2・23

矢作・糠谷・鈴木・副馬出場

青山学院第三位

女子慶応戦 S 50・6・15

B馬場 内田・溝口・大山出場
障害 " " "

馬場は貸与馬、青学の選手は一学年下のせいもあり大敗。障害は自馬で全員満点、大差で勝つ。

関東高校馬術リーグ S 51・1・16 ↓ 17

Aブロック優勝

決勝リーグ第四位

矢作・横谷・副島・井上出場

関東高校馬術選手権 S 51・1・17 ↓ 18

鏗上げ予選 矢作・糠谷・副島

一次予選合格 矢作

関東女子四校戦 S 50・12・25

内田・大山・溝口

青山学院 優勝

新人戦 S 51・2・28

井上・大山・溝口・小岩井

青山学院 第三位

関東高校自馬對抗 S 51・3・別

B馬場 溝口 (青蓮) 優勝

複合 井上 (青馬) 三位

現 役 紹 介

主 将	星 亨	ボ口ワラ主任	神 保 光 彦	經 營 三
副 将	中 村 弘	高等部係	今 野 幸 夫	法 三
副将・録鞍会係	林 哲 哉	馬糧係	宮 沢 真 一	經 營 三
主 務	鈴 木 宏 明	施設係	池 田 智 功	經 濟 三
会 計	木 村 武 雄	装蹄係	大 木 功	經 濟 三
女子一貫任者	矢 野 真 理 子		氣 賀 彩 子	史 学 三
緑鞍会係	三 村 のりこ		玉 置 恵 美 子	教 育 三
協会幹事	山 本 滋 子		中 野 啓 子	史 学 三
記 録	宮 川 容 子		尾 平 知 嘉 子	經 濟 三

会 計 報 告

収入の部

アルバイト収入	四 〇〇、〇〇〇	馬糧費	四、〇〇〇、〇〇〇	修繕費	二〇〇、〇〇〇
馬連より補助金	一、三五〇、〇〇〇	交通費	八〇〇、〇〇〇	交際接待費	五〇、〇〇〇
部 費	五五〇、〇〇〇	用具費	五〇〇、〇〇〇	雑 費	五〇、〇〇〇
学校より補助金	四五〇、〇〇〇	試合費	四〇〇、〇〇〇	計	六、五五〇、〇〇〇
寄付金	二〇〇、〇〇〇	連盟費	三〇〇、〇〇〇		
計	六、五五〇、〇〇〇	体育会費	二五〇、〇〇〇		

支出の部

馬糧費	四、〇〇〇、〇〇〇	修繕費	二〇〇、〇〇〇
交通費	八〇〇、〇〇〇	交際接待費	五〇、〇〇〇
用具費	五〇〇、〇〇〇	雑 費	五〇、〇〇〇
試合費	四〇〇、〇〇〇	計	六、五五〇、〇〇〇
連盟費	三〇〇、〇〇〇		
体育会費	二五〇、〇〇〇		



大 田 明 子	英 文 三
谷 本 越 子	英 文 三
井 上 和 宣	經 濟 二
木 下 勇 二	仏 文 二
土 屋 教	程 濟 二
島 壁 博 二	經 濟 二
池 田 和 代	英 文 二
池 松 緑	教 育 二
井 上 由 紀 子	法 二
石 川 智 佳 子	經 濟 二
加 藤 和 代	經 濟 二
上 山 千 恵 子	經 濟 二
丸 田 由 弥	日 文 二

四年生

+ (プラス) アルファ達

真夜中の馬房にそつとしのびこんでみると馬達は自慢話の真最中だす。

青隼 - 落馬させた数は何と言つても僕が一番

二年最後までしぶと

く落ちなかつた矢野さんを初めて落としたのも僕だし、山本さんや三村さんなんか何回落としたことが。

ボクー山本さんなら僕だつて嫌という程やつたさ。最近はずが拍などつけて、なかなかガツツだけれど：

ジー一三村さんも、僕が一月の休馬明けではしやぎまくつた時、ずいぶん叫んだけど最後まで僕のとてがみにしがみついた。でも量より質さ。僕なんかあの塚原君を落としたものね。皆が喜んだこと。三村さんや山本さんなんか僕に人参いっばいくれた。

青留一認めるよ。塚原君は必殺貸与馬乗りのすぎまじい人だつたからね。貸与馬の最優秀選手賞をもらったし。

青雅一貸与馬乗りと言えば豊田君。僕に対してはすごく気を使つていてねに乗つてくれるけど、人の馬だとニヤツとして思いつきりプツトバスんだつてね。

テビーそう。僕なんか死にそんな目にあつた。

あんな重い人が僕をこき使うんだもの。

青雅一僕の時は楽だつた。もつともよく雨の日に乗りまわされたけれど。

青蓮一雨と言えは宮川さん。あの人は自他共に認める雨女。今年の彼女の当番日は九七・

五%の確率で雨だつたつて。天気予報より正確だそうだよ。おかげで今年度の女子の試合は全部雨天。彼女みんなに責められてね、すごく申し訳ながつていたよ。

白扇一雨に対して軟弱なのが矢野さん。私の毛が長くぬれると真青だからつて雨ふると即休馬。馬場がぬかるんでとすぐ外へ。これじゃあやせられないわ。

青冠一やせるといえば、中村君胃を悪くして六キロやせたというけど一山本さんが必死でその秘訣を聞いていた。乗せる側として

は全くそんな気がしないよ。相変わらず酷使される。ひよつとしたら好きなものも食べられないから僕にあたつていいるのかな？
エリー中村君の長靴はいつもピカピカね。人

によつて気を使うところが違つからおもしろいわ。中島さんは馬場着には一向気を使つていないようだし。でもあの人は自分の思つた通り私達が運動するまで容赦しない人。

ジーそしてあの力！ 僕の事白扇のそばに連れて行き、せつかく仲良くなるうとしてるところをひつぱりもですんだもの。三村さんなら軽く引きずつて行けるのに。ただ、その後はちよつとおつかないけれど。

トリ一最近正木さんと鈴木君を見かけないな。どうしたんだろう。正木さんは僕らに公平な人だつた。好き嫌いに無関係に僕らの世話してくれたつて。ああいう人は珍しいよ。たいていの人は私利私欲で自分の好きな馬だけ特別扱いするのに。

青蓮一正木さんはもう馬術部卒業なんだよ。鈴木君の方は、また例の忍法だよ。彼は行方不明になる天才だからね。九時までか連絡がつかない家に下宿して、決して九時までには家に帰つてこないんだから。

エリーへえ。あの人、頭いいのね。
ミー一誰か来たかと思つてピクツとしちゃつた。木村君は時としてんでもない時間に私を出すんだもの。先日なんか夜中の三時

なんでも11PMでドギツイのを見て以来目がさえて眠れないからって……一生懸命やってくれるのはありがたいんだけど。

青雅「そっだよ。君の調馬索が終わると、君の走った跡と木村君の走った跡ときれないな。円が二つもできるじゃないか。あれはなかなか普通の人にはやれないよ。」

ボク「毎朝コンスタントに運動してるのは僕だ。林君って軟弱そうで「軟弱だから?!」ちゃんと起きるから。もつとも時にほ女子更衣室でためき寝入りをしてるらしいが。」

青貴「知ってる。でも女子にはお見通し。」
青馬「その手の話は昔からあるんだよ。何故か代々僕の責任者になる人が中心で……」
ミー「だからあんたも女子のセーターまくるんでしよう。いやらしいわ。」

青馬「仕方ないよ。塚原岩、星君、と代々きつがれたいやらしさだもの。」
一平「確かに星君も人畜無害でありそう、でも彼はともかく悪運が強いね。青学の今の成績もほとんど星君の悪運の強さの勝利だって皆言っている。」

ノー「しいー。あの音。わぁー飼つくだ。」
ボク「全くお前は林君に似て食い意地が汚ないんだから……ヒヒッーン。」

午前三時。待ちにまった飼つけ。今日の馬連のよもやま話しほ、これでおしまいのようにです。

三年生

今野くん、はるばる北海道帯広より風のように、というよりは空気のようになつて飛んできたお方です。まじめでないようでもまじめな人。高等部コーチとなつて以来、めつきり風格がついて今後も有望。

と、どこかでヒッソリすりわりこんでいたり、疲れているのかなつて思うと、急にガツツとどび回つて仕事の鬼と化す。すずはや君とも仲良し。

大木くん 装蹄係だったので。一見やさ男風実はけつこう力持ち。大好きなウイービーに足を踏まれて全治?ヶ月。復帰後に期待!!

神保くん 群馬県大田出身。文化都市大田の星だけあって、チビ太にお手を教えこみました。これに続く文化活動はいかに!

池田くん おつとりした二年男子の中の唯一のしめくりやさん。西船橋のそのまた奥の未開都市から大都市網島に出現する彼の姿は常にリリシイ!

谷本さん サル飛びエツチャンという名のとうり、馬上にも馬房の上にもスルスルとあがつてしまうその身軽さ!!エネルギーの素は大好物のギョーザ。

玉置さん 朝から晩まで忙しいのが大得意。地上でも馬上でもいつもビヨンビヨンとび回る。試合での馬上姿、揺れる黒髪ーステキー。草刈りも超一流のカマさばき。

気賀さん やせてるくせにいつも太った太ったと言つては心配そうにお腹をながめてる。白扇に顔が似ていると言われては、そうかしらと首をひねる。表情豊かなおしゃべりがまわりの方々を大いにひきつけるのです。

佐藤さん 馬術部唯一のインテリゲンチャー。みんなが彼女の成績表を羨望の瞳で見ているのです。Aは天から降つちゃあこないんだヨ。努力!努力!世界をマタにかけるサトウチャンがんばれ!!

安池さん いつも女らしい雰囲気。二年間の馬術部生活を終え引退しました。彼女の前途を祝って乾杯!!

尾平さん 愛車「LUCY」に乗ってやってく

るかわいいうち力ちゃん。品行方正そうだと
思ったらチョット違う。のり始めるとおもしろいことやドジのかたまりがドツとわき
出る。誰でも誘いたくなるかわいいう子。でもきつと今日もデートかな?

中野さん お前が男だったらおもしろかったのにと宮沢くんが言ったそう。でも男だったら宮ちゃんを抜く馬術部のガンになったでしょうね。お前女でよかつたヨ、と一同は思うのです。

太田さん みんなの知らないところでドジをして、コロコロころがっているみたいなのアコちゃん。下級生とも仲良しさん。みんなの間でおかしなこと言っているコロコロ、聞いているコロコロ笑っている馬の大好きなお嬢さんです。



二年生

我がクラブの話が始める時、まず話題になる事は、馬の事よりもその中にいる人の事です。馬術部は、特に私達一年生はなにしろ個性のかたまりのような集団です。十人十色とはよく言った物です。

私達、特に女の子はまつたくその通りで、ハツキリ自分というものを持つているのです。だからぶつかり合う事もしょつちゆう、ブツブツ言ったり言われたり、それがけっこう楽しいのです。

ではそろそろ、私のステキな仲間達を御紹介いたします。まずはやさしい男の子達から。
長壁くん 私達の中では一番年上、やはり貴禄も一番。おとなしくて、普段は私達を見守る役、車とお料理が好きでシャンソンも好きという、ステキな趣味の持主。

木下くん 彼の事を、どぶ川に浮ぶ丸タン棒のような人。と表現した人がいる。どうでもいいようで、それでいてちゃんと下流に流されていく。ユニークな考えの持主で、話

していて楽しい。力強さがいい

土屋くん 人が良くて、頼まれたらいやと言えない人。いやな事も、おもてに出さずじつと耐えるタイプ。何事に対してもまじめで冗談を言う時もまじめな顔をして言う。
井上くん 感情の起伏が激しく、それがすぐおもてに出てしまう。それが彼の良い所である。人を引っぱって行くタイプ。常に自分に自信をもって精一杯生きている。

石川さん 外見はわりと似ている私達の中で彼女は異色の存在である。背も高くあねごタイプで、後ろにぞろぞろしたがえて歩きそんな感じがする。最近めつきり女らしくなったというわさもチラホラ...

丸田さん 一見おとなしそうだが、わりと好き嫌いが激しく、ともしればそれがおもてに出てしまう。自分ではいじわるだと言っているが、なぜか私達にはとてもやさしい。
加藤さん セレクションで、みんなの期待を一身に浴びて入って来た。豊かな個性の持主で、一日中、一緒にいてもあきない。カラツとした性格でとつきやすい。

池田さん この四年間の彼女の変身ぶりは、恐しいほどのものである。目で物を言うという感じがする。食べるために生きている

という感じで、すこく人間味がある。

井上さん わりと自分をおもてに出さないタイプの人間である。笑うと目がたれてかわい。普段は、ニヒルな女でせているのだからそうであるが：

池松さん とても活字にはおさまっていない人である。思った事を言葉にするのがとてもうまい。将来は、国連の事務総長になるのだと日夜頑張っている。

上山さん この人の目が良い。ムキツとしていて。あの細いからだのどこからあんなガツツが出るのか。「本当に不愉快に細い足」よく笑い、よくしゃべる楽しい子。

こんな個性豊かな11人の団結力を支えているのはすべて、「思いやり」であると思います。



緑鞍会よりのお願

現役の人達が馬に、バイトに忙しく、緑鞍会々費の徴収がはかばかしくなかつたので、四～五年前から緑鞍会幹事がその任を負って少しでも多く会費を集め、馬糧その他現役の補助を、と心がけたのですが、実際ほ思うにまかせず、たいした成果を見る事無く今日に至っております。

この度の「いななき」発行に際して、改めて皆様の御協力をお願いすると共に、連絡の不行きとどきを深くお詫びいたします。

緑鞍会幹事一同

振り込み先

協和銀行新橋支店

口座名

協和信用組合青山学院

馬術部 緑鞍会

年会費

三千円

Snack & Bar



umagoya



中央区銀座6-9-12(房野ビル2階)
Fusano Bldg. 2nd. FL.
6-9-12 Ginza, Chuo-ku,
Tokyo, Japan Phone 03(571)0230

馬匹紹介



青馬留号

優秀選手と並び功労賞まで授けられました。ややオーバーワーク気味なゴンベに少しでも楽をさせてあげたいと新馬調教に一層励む我々ではありますが、同時に、我らの夢と期待を乗せて、いつまでもりりしく、いつまでも頑張って欲しい、そんな青馬留号なのであります。



青冠号

そんな馬がどうしてもてはやされないのだからか。不思議に思う方もおもしろいでしょう。そういう方は、どうか一度ラツクの馬房をのぞいて見てください。たちまちお尻を向けられ、障害飛越時以上のダイナミックな力にあふれた蹴りを御覧になれるでしょう。彼は反抗的精神が旺盛なのです。

しかし、こんな彼にも一度人参を見せられればたちまちのうちにふせた耳をつき立て、鼻ずらをすり寄せる、という可愛らしさ「意地汚さ」があります。いえ、人参に限らずマシユマロ、タイ焼き、アイスクリーム、はては「筆者は味を覚えさすまいと極力避けてはいますが」肉マンまで大好物なのであります。武器はいくらでもあるのです。勇んでラツクを手なづけようではありませんか。

当年とって十六才。そろそろ年では……という周囲の心配もよそに一向に老いたる様子も見せず、青学をしょって立っているのが我らが名馬、育馬留であります。彼の試合場における落着ぶりは益々貴祿を加え、彼の障害を見る目つきは更に鋭どさを増し、自動車の音に驚き跳ねる様は元氣洗刺とし、その騎乗者をして恐怖につき落とすのであります。

また、彼の活躍はとどまる事を知らず、昨年度の体育会総会に於いては、他のクラブの堂々とした馬体。太陽を受けキラキラ光る美しい栗色の毛並。障害はダイナミックに飛び、汗のかわきも早く、寝わらも汚さない。



青貴号

まいにち、まいにち、ばくらは
つなしまの ばばを ぐるぐる
いやになっちゃうよ

かつて、青い目のプリンスと呼ばれた。黒鹿毛のこの華奮な体、阿部先生の手になるこの繊細な口、こわれ物の如く大切に扱われたものである。名の示す通り高貴な存在であったのも今は昔。寄る年波には勝てぬ。一介の練習馬とあきらめてしまえばいつそ気楽である。ところが、青馬留君なぞと我が身の境遇を較べてみると「彼は私は同期なのだ」グイッポのひとつもしたくなるうというものである。それでも時折、大靱をかけられた時などは、我知らずサラブレッドの血が騒ぎすばらしい歩様をお目にかかる事もある。ただし、乗り手がこの反撞に耐えてくれればの話だが。

やっばり ばくらは れんしゅうば
すこし つかれた れんしゅうば
きのうも きょうも また あすも
ばばを ぼこぼこ まわるのさ

記すに値しない日々ではあるが、この私にとってただひとつ特筆すべきは、実に「お手」
と「おかわり」ができるという事なのだ。
ウンだと思つたらニンジン持つて来てみてくれたまえ。



青蓮号

B馬場競技に優勝する事数回、上級者乗つておもしろく初心者乗せて絶対安全、常歩の様バツグン速歩の反撞楽勝駆歩は迫力満点。鞭もギザ拍もOK、おとなしい事チヨウチヨの如く、タフな事ブルドーザーの如く、未だかつて故障は皆無。暑さに強く寒さにはもつと強く、粗食に耐えてコロコロとよく太りネワラは汚さず手入れは簡単、背が高く容姿端麗とは言えないがまあ憎めない顔つきで、品行方正人畜無害、なんと足も四本ついている。

そんな世にも希なる名馬が青学にいたつけどと悲しい事を言わないで欲しい。育蓮号アラ系、牡、鹿毛、十才、通称NO.1、玉乗りの象みたなかっこうでペロを出して立っている、顔と胴だけやたらに長い馬。水まき用



青雅号

のゴムホースの前で目をむいて膠着し、はては騎馬の顔を見て怯えている馬、それでも彼こそ青学の誇る馬場馬に違いないのだから。

呼び名はウィービーライン。クラブの馬の中で一番過保護、わがまま、贅沢な馬ではありますが、艶といい馬体といい、とてもきれいな馬です。「欲目かもしれませんが」又、汗をかいてもすぐ乾くし、ちよつとブラシをかけるのとピカピカになってしまうので、この馬程手入れが楽な馬はいません。

一年程前に馬転し、半年程休ませたそうですが、今ではもうすっかり元気になり、特に休馬あけはたいへんです。私などはクラブに入つて一年で、二回悲惨な落馬をしています。これらは共に休馬あけのウィービーによるものです。以前は、手入れの時かなり暴

れたりしましたが、今はもうおとなしく、ウイービーファミリーがあふれんばかりに集っています。障害馬ですが、素直で止まる事を知りません。

ウイービーは最高ドジな馬ですが、同時に最高かわいい馬なのであります。



青 隼 号

青山で一番人なつこい馬といえば、僕、スズハヤブサです。現在、練習馬の主力をなしています。人をかんだり蹴ったりしない、おらかな馬です。試合へ行くと青隼と呼ばれます。元氣いっぱいなので貸与馬として、よくひっぱりだされ、精一杯活躍しています。顔立ちがよいので、いつかはCMに出て、皆さんを驚かす日もあろうかと思えます。「ターバン」のCMに出てくる馬にとてもよく似ていません。不断、僕は「スズブー」とか「ブー」

とか呼ばれて僕の首にぶらさがったり、抱きつかれたりなどして、とっても可愛がられています。食欲旺盛なので、とくに下級生の人が飼い葉を大盛りしてくれ、またたくさんの草を刈っては、食べさせてくれます。そのせいか腹が少々ですぎてしまい、幾分気になります。これからも、毎日、綱島の青空の下で、皆さんと一緒に練習に励み、元氣いっぱいどびまわり、はねまわりますのでよろしく。



スズボクサー号

エヘン、我輩の名はスズボクサー。そんなよそらの馬とは違うのだ。競馬のレコードタイムを持つているのだぞ。それなのに我輩に乗るほとんどの人が、「重い、重い」といって拍車を入れる。そういう人には、一発パインとほねてから駆け出してやるんだ。する

とあっさり落馬して、我輩に乗るのはもうこりこりということになるのである。もつとやさしく、わかりやすく合図してくれればいいのに……

我輩は、自分でいうのもなんだが、なかなかのハンサムでもある。小作りではあるが、均整のとれた体つきといい、女子部員の人気の的である。我輩の大きな目をうらやんで、「金魚目」などという人も中にはいるが、目は大きいにこしたことはないのだ。我輩に毎日乗っている山本さんもいつもそういつて



ジ - ガ - 号

何といつても彼の特徴はその出っ歯にある。かみ合わす事が困難な為、時には人参をかむことにも苦労をし、前足を洗う者の目には、まるでジョウズのように一そろいの歯が閉じ

た口からのぞいているのが見える。

性格は素直であると思われる。というのも周囲の悪い馬から前がき、かむ、蹴る、人に襲いかかるなど、悪い癖という癖をすべてすなおに受けついでしまったからである。最近ではラック以上に恐ろしい馬との評判もある。しかし、実は日なたと同僚を愛す平和な馬で仲間と一緒にいれば何時間でも顔をなめあつては恍惚としている。

力があり、障害馬として調教されているが馬場馬にもなれるのでは、と一部のOBが考えている程脚に敏感である。これからの活躍が楽しみな馬である。



グリーンラップ号

ボクの名前はグリーンラップ。でもみんなはチビ太って呼んでいるんだ。どうしてってちっちゃいから。でもばかにしちやいけなよ。障碍はじゃんじゃん飛ばし馬場ウマとし

ても仲々みどころあるんだ。それに小さいながらにひきしまったこの身体、顔だつてあこがれのゴンベ兄貴に似ているって評判なんだぜ。たださあ、ボク手入れの時ちよつとうるさいんだよね。だつて金くしはくすぐつたいし、「特に女の人はたまんないよ」くさいぞうきんで顔ふかれるし、だから暴れちゃうわけ。なあに？前がきするなつて？でもボクも必死なんだよ。早く大きくなりたくて、どんな飼ひ食わせろ一つていうわけ。あとボクの不満も聞いてよ。あのさアボクの大靱、ひどいと思わない？あれちよつと太すぎだよ。もつと似合うのなのかなあ？ボクつて意外とスタイリストなんだよ。これでも。



トリプル・チャンス号

ハンター 鹿毛、まだ七才。

童話でお姫様が乗る馬というよりは、ギリシヤ神話で高貴な方の馬車をひくような馬であ

る。ともかく大きく力強い。蹄の音も重々しく、障害に向かう姿は「果敢」そのものである。ただ、着地の時、拍車などはいると、「キーン」とどこから出るのかわからないような可愛いらしい声をあげ、我々に彼の幼い事を思い出させる。

ふだんはおとなしいが、一度飼を見せると大変で、それほ彼の馬房の前にほつてあるシール、飼つけ中は近寄るべからず「からもわかるとうりである。

試合ではまだ成績をあげていないが、ともかく力のあるこれからの馬で、将来が楽しみである。



白扇号

なんだか知らないけど今さら自己紹介なんてはずかしいからいやだわーというわけでインタビュということにしました。

Qーおとしは

Ａ―はじめからやな質問―阿部先生と同じで十七才よ。

Ｑ―趣味は

Ａ―スズバヤ坊やの鼻毛をむしること。

Ｑ―白扇という名の由来ご存知ですか。

Ａ―私若いころはスマートだったの、これでも白い扇の舞のような運動をしたのよ。

だから…

Ｑ―失礼ですがまだお一人ですか。

Ａ―エエ、独身貴族のつもり、でもこれは内緒の話なんだけど春に縁談があるかもなのフフフ…

Ｑ―ホーウ！それでは最後に今年の抱負なぞ
Ａ―もつと阿部先生に乗っていただいで馬場ウマの母と言われるようになりたいワ。



ノ一バ号

ばくのことについて、何か話せて？えーとねえ、ばくの名前はね、どうしてだか、ノ

「バアっていう人もいる、んだけど、たいていみんなノ一バって呼ぶよ。それからねえ、えーと黒鹿毛でかつこいって言うてくれる人がいるしね、それからハヤアシが、きれいなんだってねえ。何が好きかって言うてね、馬房のまん中にね、寝ワラでお山を作ること

と、それから人間と遊ぶことかなあ。困ったことはねえ、えーとこないだ阿部先生をね、落つことしちゃった時。それだからさあ、みんなあんまり、ばくに乗ってくれないのなあ。でもいいんだ。木下くんだけはねえ、ばくのこと、わかってくれるんだもん。えつミ―バをどう思うかって？ば、ぼくよくわかんない。それでおしまいなの？あの一―それより、「いななき」ってなあに。食べるもの？



ミ一バ号

そよ風にそこほかとなくボロの香ただようらかな昼下り、馬房の扉の破れ目に顔を

のぞかせたうら若き乙女。ボロ山に咲いた一りんの花、青山のアイドルミーちゃんである。真紅のバラ、真綿色したシクラメン、古今東西女性を形容するには花を用いる事が多い。

その線でいくと彼女はさしづめ、ワラびき屋根のてっぺんに傍若無人に咲きほこるペンペン草でも言うべきか。幼くして母を失なつて人間の手で育てられ、競馬界の荒い風にもあてられずに綱島に来た箱入り娘の彼女である。そのせいか明るい鹿毛の彼女の、走る姿には緩かさや郷愁がほのかにじみ出て、何となくふかしイモを思わせるのだ。気を悪くするとくるりと回つてお尻でせまってくるミ―ちゃん。彼女もそろそろ年頃なのである。今年五才、花ならまだ蕾のミ―ちゃんが、いかに華麗に花開くかは、今後の調教待ちというところである。



クィーンエリザベス号

自己紹介と言われても、何から書けばいいのかしらん。栗毛四白、流星鼻梁鼻白、首の右二つと左一つの大きな星、黒目からの瞳、しなやかヘヤー、そして大の男嫌い。女は、清く気高くと言うのが私のたてまえだから、もつともですけど、ここの男子部員ほ失礼にも背後から、挨拶なしに近づくんですもの。

歯を「本や、あばら三本所」たつて仕方がありませんよネ。特技としては、犬の鳴きマネができる事、それから障害飛ぶのは大好きで部活運動をしているときも、目の前にあると飛びたくてウズウズ、この前も飛んでみようかなって思ってた近頃は、ダメ、ダメって、上にいる人は大騒ぎ、ばっかみたいー無理やりに飛ばせたり勝手なものよネ。でもネ、一メートル九十センチ位は、誰を乗けていても飛べるんですよ。実は、農耕馬出身のワタクシ、父母の名は知りませんが、血統はいいんですよ。名前を見て下さい。青学にきて一ヶ月。オリンピック記念の学生障害優勝、馬場も位と、これからはもつと女の心意気を見せてさしあげます。

P.S 私、どういふ訳か犬歯がはえてきたんです。XXYではと、心配しているのですけれど、どなたか相談にのって

いただけませんでしょうか。



ウィッチウェイ号

最近のウィッチウェイについて一言いえばヨボヨボ。昔は大障害馬で、高津さんと国際試合をあらし回っていたんですってネ。豪州で生まれ育った外馬なんですものネ。今ほそんな面影は全くなくて、おじいさんそのもの、年令を数えるのも忘れてしまった程。一回寝ると人の手をかりないと起きれないし、あげくの果に床ズレができてはげになったりでもネ、この馬の楽しみは、お水をのむことと、お散歩。土手の階段を器用に登ったりそしてフンとあたりを見まわしながら、草をたべるんです。この間この馬の実力を発揮した事件があったんです。グラウンドに放牧地を作って入れておいたら白い犬がウィッチをばえたてたんです。一同どうなるかと思

守る中を二メートルもある柵をひょうひょうと垂直ジャンプしてトコトコ馬場の方に走って帰ってきたのです。サアースが、名馬よ永遠に、長生きしてネ！おじいさん。



イチベイ号

この馬の名前はイチベイ。通称チヨコベイ（これはうそ）。一見、青運にそっくりな馬である。

去年までは中山で大障害を飛んでいた。現在は毎朝品の調教をうけているが、ちょっと高い障碍になると、とまってしまふ。そこはやはり馬術の世界である。

しかし、我々はこの馬に期待をかけている。中山大障碍で勝てなかつた夢を、この馬術の世界で花咲かせ、そしてイチベイというおもしろい名前を、将来は第二青馬留と呼ばせたいのである。

昭和51年4月24日 印刷

昭和51年5月 1日 発行

い な な き 11号

発行所 青山学院大学体育全馬術部
東京都渋谷区渋谷4 - 4 - 25

TEL 03 - 407 - 2546

印刷所 株式会社青学サービス
東京都渋谷区渋谷4 - 4 - 25

TEL 03 - 409 - 4402

—取扱商品—

60年の歴史を誇る独乙の提携会社

FUCHS社が開発した：—

切削油, 防錆油, 工業用潤滑油

三共商事株式会社

代表取締役 井上 恒春

電話 402-3608

乗馬靴の御用命は習志野《稲毛屋》へ

習 志 野

INA

GE

YA

有限
会社

稲

毛

屋

TOKYO JAPAN

＝乗馬用長靴・乗馬用長靴保存木型・拍車・巻バック
スエーデン製ゴム長靴＝ 各種サイズ有リマス

(〒150) 東京都渋谷区神宮前6-11-7

T E L (4 0 7) 0 3 0 7

小田急ハルクにてもご注文承っております。
ご注文後1ヶ月でご調製申し上げます。